



りくぜんたかた

市議会だより

令和8年 第3回定例会

● 消防・防災フェスタ2026

岩手県陸前高田市議会

● 編集／議会だより編集小委員会

No. **138**

発行日

令和8年10月21日

市内11地区で 議会と語る会開催



「市民として意見を言える場で良かった」「他の参加者の意見が参考になった」といった声がある一方、「前回の意見への回答がない」「意見や要望がその後どう扱われるのか分かりにくい」との指摘もありました。また、参加者の60代、70代が全体の77%を占め、若い世代や女性など、より多様な市民が参加しやすい運営の在り方を検討する必要性を感じました。

市民と語る会は、開催すること

自体が目的ではなく、参加人数だけで会の成否を判断せず、多様な市民が参加できたか、十分に発言できたかも検証しながら、お寄せいただいた声を議会として受け止め、今後の調査や政策提言につなげ、その結果を市民に返していくことが大切です。今後も開催時間や進行、テーマ設定などを工夫し、「報告する場」から「対話し、受け止め、返す場」へ、さらに充実させていきたいと考えています。



陸前高田市議会の「議会と語る会」は、7月14日から31日まで、市内11地区で開催しました。15人の議員を3班に分け、議会の活動や予算等の資料、各常任委員会の取り組みを説明し、地域の課題や市政全般について市民と意見交換。計172人の参加で、地区別では10人未満の地区が4地区あった一方、「少人数だからこそ気楽に話せた」との声も寄せられました。

各会場では、道路・河川の維持管理やクマ対策、空き家、学校の統廃合、未給水地域への対応、漁港整備や漁業振興、人口減少、企業誘致、地域行事の継承、防災、再生可能エネルギーなど、暮らしに直結する幅広い意見や要望が寄せられました。

地域ごとに事情は異なりますが、市民の声には、議会が今後取り組むべき課題が具体的に示されていました。

これらの意見は、内容を整理



し、取扱方針を4つに分け、市長に申し入れるもの、議会内の特別委員会で調査するもの、総務・教育民生・産業建設の常任委員会で調査するもの、その他の意見として今後の議会活動の参考とするものに分類し、必要な調査や確認を進めていきます。

市民から頂いたアンケートには153人から回答があり、回収率は89%でした。満足度では肯定的な評価が過半数を占め、否定的な評価は1割未満でした。

市長へ申し入れ

議会と語る会の市民要望

本市議会は、議会と語る会での市民要望や提言を14項目にまとめ、9月29日に佐々木拓市長に申し入れました。

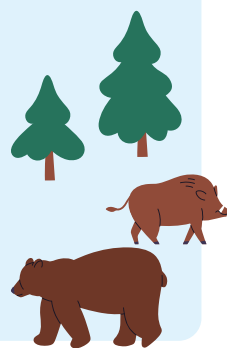
佐々木市長は「庁内で内容を確認し、対応を協議していきたい」と話しました。

報告書の詳細
はこちらから



主要要望事項

- クマ・有害鳥獣対策
- 道路整備・支障木対策
- 学校教育・統廃合・暑熱対策
- 公共施設・コミュニティ整備・運営
- 産業・企業誘致・道の駅・新施設活用 など14項目

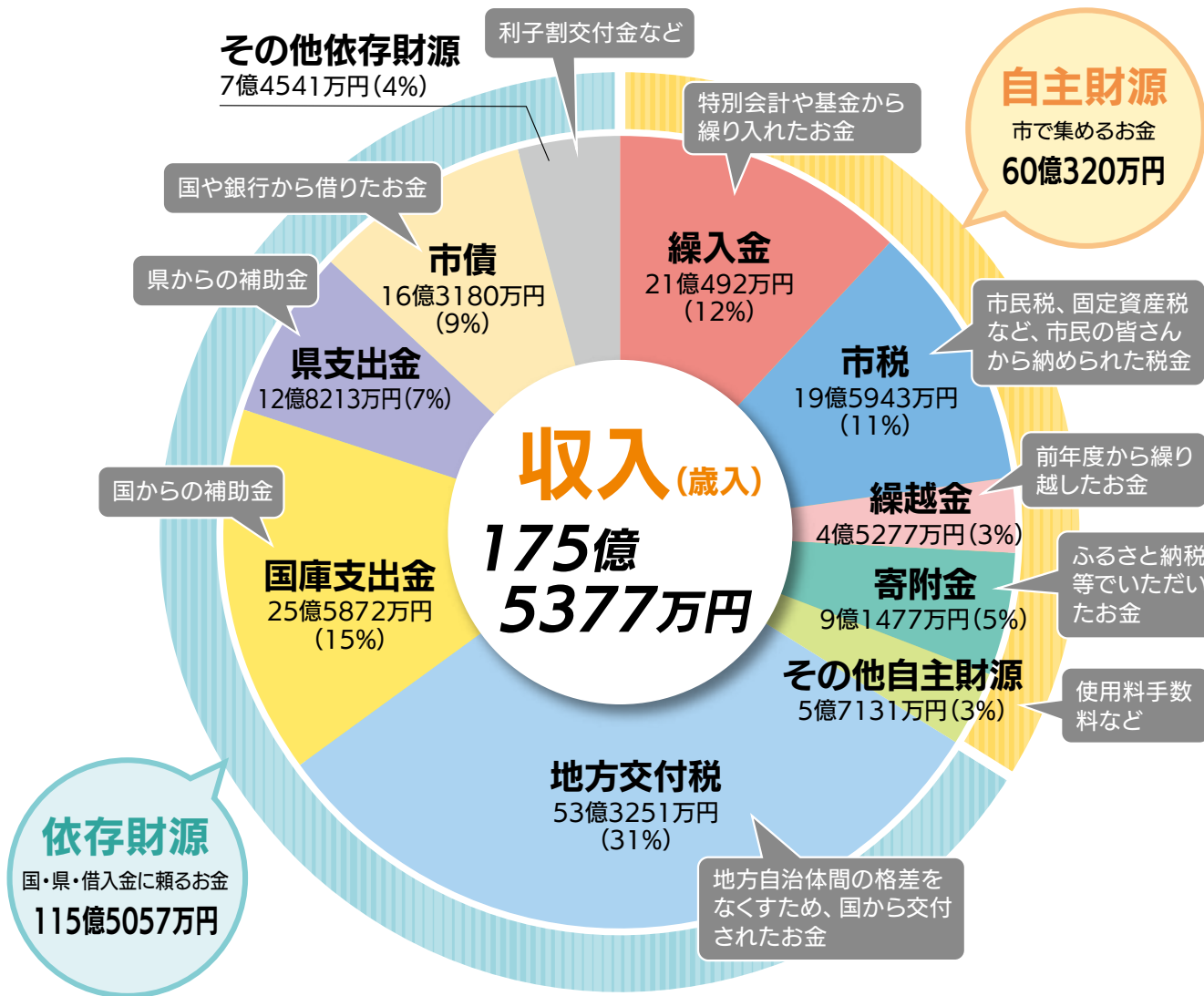
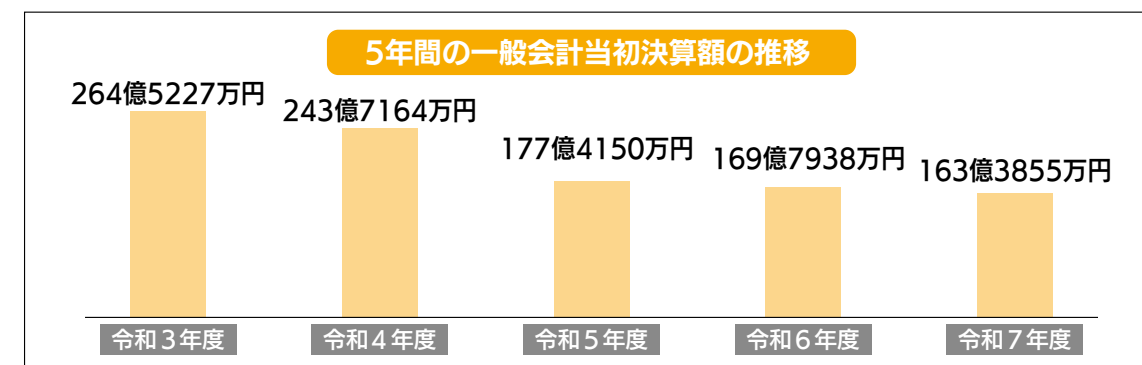
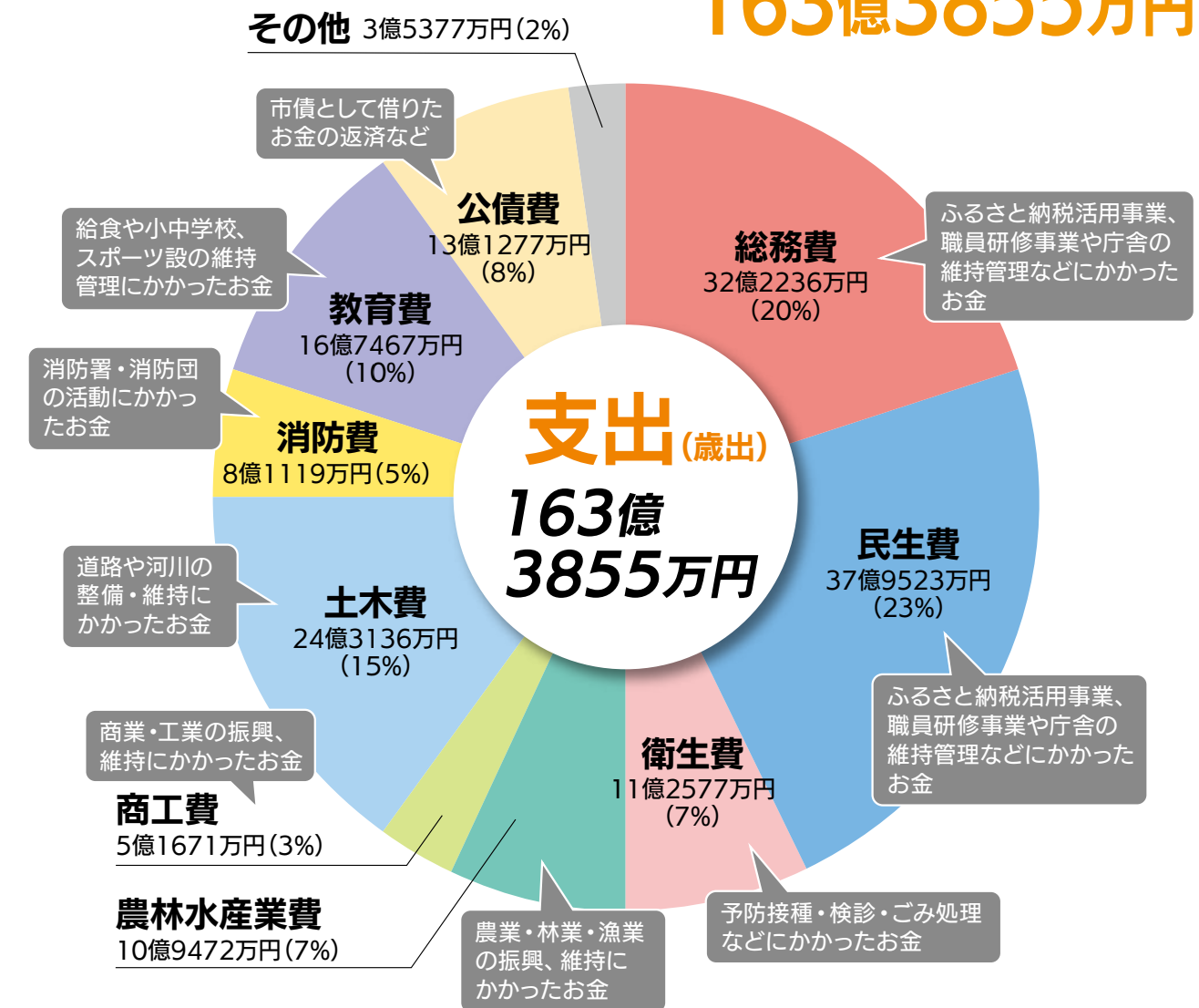


プレミアム商品券発行や水道基本料金の引き下げなど 物価高騰対策を展開

認定

第3回定例会は、9月3日から9月29日まで27日間で行いました。
市当局から提出された報告3件、人事案5件、執行前提案2件、条例案6件、補正予算案2件、決算案6件を原案通り可決・認定しました。このうち、令和7年度の本市一般会計、歳入175億5377万円、歳出163億3855万円の決算を審査した決算等特別委員会では、基金について、予算執行の在り方についてなど、事業別ごとに当局を質しました。（詳細は6ページ）
また、一般質問には10人が登壇し、市政全般にわたり論戦が展開されました。
最終日には、追加提案2件があり、このうち教育長の任命については賛成少数で不同意としました。また、意見書を求める請願は、付託された教育民生常任委員会の報告のとおり採択され、委員会発議として意見書が提出され、原案通り可決しました。（詳細は15ページ）

一般会計歳出 163億3855万円



会計区分	一般会計	特別会計				
		国民健康保険(事業勘定)	国民健康保険(診療施設勘定)	後期高齢者医療	介護保険(保険事業勘定)	介護保険(介護サービス事業勘定)
歳入	175億5377万円	19億7492万円	1億7077万円	3億207万円	25億1375万円	2417万円
歳出	163億3855万円	19億5821万円	1億7077万円	3億207万円	23億9192万円	2417万円
翌年度へ繰り越すべき財源	9421万円	—	—	—	—	—
実質収支額	11億2101万円	1671万円	0円	0円	1億2182万円	0円

企業会計	水道会計		下水道会計	
	収益的収支	資本的収支	収益的収支	資本的収支
収入	5億8488万円	3億9307万円	10億4114万円	5658万円
支出	5億4795万円	6億2113万円	7億3084万円	4億4029万円



大型化・高額化する農機具

農業機械・設備への補助は？

問 農業機械が高額化しているが、補助額の引き上げやトイレなど対象設備の拡大は。
答 今後、他の制度とともに検討したい。
問 たかたのゆめの普及拡大は。
答 これまでの専業農家だけでなく、兼業農家へも普及に努める。



枯死した木が目立つ広田崎

問 海岸部での松くい虫対応は？
答 松くい虫被害が広がり、特に海岸部に枯死した木が目立つ。対応はどうか。
答 市有林内の枯死木は、危険性などに応じて伐採を行っている。
問 魚つき保安林での伐採や伐採後の対応は。
答 保安林を管轄する県と

空き家活用は？

事前確認や情報共有などを行っている。



問 登録や利用の問い合わせ件数はどれくらい来ているのか。
答 委託先は除き、市に月に5件程度の相談は来ている。
問 問い合わせの段階で、断るような事例はあるのか。
答 空き家バンクの登録で一番ネックになっているのが、相続関係。市に相談があった場合には、まず相続手続きを済ませるように回答している。



空き家の利活用を

決算審査〈質疑〉

決算等特別委員会

令和7年度の一般会計及び各種特別会計の決算案は、本定例会会期中の決算等特別委員会（藤倉泰治委員長）で3日間の審査をしました。その中から質疑の一部を紹介します。



評価額の見直しが必要な区画整理地内

市税の滞納額が増えているのは？
問 市税の滞納が増えている理由は。
答 倒産や、生活困窮者が増えていることが原因。
問 区画整理地内のかさ上げ地など、資産価値に見合う固定資産評価額の見直しを行っている。
答 令和9年度の評価替えて金額を見ていきたい。

家賃滞納の改善は？

問 令和3年度の収入未済額と比較し、7年度は倍増しており、看過できる状態になく、改善は。
答 市営住宅の入居者との直接の面談においては、現在の物価高などで生活が苦しく、支払えない入居者が多い。分割でも継続的な支払いをお願いしている。
問 公平性を考えれば、何らかの手立てはないのか。
答 高額な未払いや、悪質な場合は法的措置を含めて、今後検討していきたい。



家賃の悩みは早めに相談を

我が市政を問う！

一般質問

監査委員が指摘

ふるさと納税基金処理のミス

令和7年度決算に関し、監査委員から指摘がありました。監査委員は、審査意見書の中で「形式収支、実質収支ともに前年度から大幅に増加したのは、一般会計で収入したふるさと納税寄附金8億9041万円を陸前高田がんばつべし応援基金に積み立てを行うべきところ、その処理を失念したためであり、本来であれば実質収支は1億7035万円の赤字となり、実態に即した決算数値とは言い難いことから、地方自治法で定められている会計年度独立の原則を踏まえた適切な事務執行に一層留意されたい」と指摘しました。

本来、ふるさと納税寄附金は、市が行う子ども支援のための事業や給付型奨学金事業はじめ10事業を行うために全国から寄付されているもので、7年度は総額8億9041万円の寄付がありました。これらは8年度に行う10事業のための財源となるものでした。

しかし、がんばつべし応援基金に積み立てるはずのものが積み立てられず、地方自治法の規定によって繰越金とみなされ、財政調整基金に積み立てられました。

決算審議では、議員からも制度に則った行政事務を行うよう求めたところです。

議選監査委員と決算審査意見書に関する意見交換

今定例会において、新たな試みとして、議選監査委員との決算審査意見書に関する意見交換を実施しました。

議選監査委員とは、議員の中から1人が選任される監査委員で、市の財務状況や事業が適切に行われているかを監査する役割を担います。本市議会では、木村聡議員が選任されています。

今回は、9月3日の全員協議会の中で、監査においてまとめられた決算審査意見書をもとに意見交換を行い、決算審査をより深めることを目的に、この取り組みを実施しました。

木村委員からは、ふるさと納税寄附金の基金への積み立て漏れの問題に関する見解や、実質単年度収支の赤字が続いている

ことへの危惧、近年減少していた市債残高が増加に転じたことなどについて説明がありました。

出席議員からは、歳出削減策や今後の財政見通しについて質問があり、活発な意見交換が行われました。

今回の意見交換を通じて、決算審査意見書の内容をより深く理解するとともに、市の財政状況や今後の課題について認識を共有する機会となりました。



意見書の説明をする木村監査委員



うのうら 鵜浦 昌也 (創生会)

自治会活動どう支える

支援事業を通して検討中



こちらから視聴できます

問 地域活動を担う町内会や地区コミュニティ推進協議会が役員のなり手不足など、様々な課題を抱えている。行政とのパイプ役でもある自治会への支援策をどのように考えているか。

答 本年度から新たな自治会の在り方などを具体的に模索する「コミュニティ支援事業をスタートさせた。自治会の運営状況や事務負担の把握、持続可

外国人観光の対策は

問 外国から「みちのく潮風トレイル」などに訪れる観光客（インバウンド）をどのように受け入れるか。

答 ネット上の「高田旅ナビ」にトレイル専用ページの英語版を作成し、外国人ハイカー向けの情報発信を強化する。また、市内の施設やサービスを掲載した英語版ガイドマップを作成するなど、本市を訪れる外国人旅行者の誘客と市内周遊を促し、滞在時間の延長や観光消費の拡大につなげる。さらに、本市ならではの魅力を生かした受け入れ環境と観光商品の充実に取り組む。



毎年自治会が主催して開かれている敬老会



い せ じゅん
伊勢 純
(日本共産党)

漁業残渣の処理は

海に戻せるよう国県へ求める



こちらから視聴できます

問 ホタテ・イシカゲガイ養殖の貝殻や海藻の付着物である残渣の処分費用が急増する予定だ。市の対応は。

答 当面の間、残渣処分の方は焼却によらざるを得ず、費用は昨年度よりも増加の見込みだ。市は、引き続き処理費用に対する支援に努める。



養殖漁業の課題である残渣（広田町）

問 残渣の処分量圧縮に向けた市の考えは。

答 漁業者には可能な限り動物性と植物性の分別への協力をお願いし、植物性は市内の肥料化事業を推進する。一方で海産生物由来の残渣は海に戻すことを可能とする方策を国・県などに対し求める。

農福・水福連携は

問 農福・水福連携による有機質肥料の生産振興は。

答 全国的に先進的で価値のある取り組みであり、力強く支援・推進していく。

たかたのゆめは

問 たかたのゆめの販売促進へ市の役割は。

答 今後さらなる認知度向上と販路拡大に取り組む。



おおわ だ か よ こ
大和田加代子

高田高の国際科設置は

知事に直接要望した



こちらから視聴できます

問 高田高校に国際関係学科設置に向けた取り組みは。

答 約3年間にわたって岩手県に対し協議、要望を行ってきたが、第3期県立高等学校再編計画には盛り込まれなかった。達増知事には、高校の無償化により県立高校はこれまで以上に魅力化に取り組みなければ存続が厳しいことを伝え、再度



高田高校に国際関係学科の設置を要望

高田高校に国際関係学科の設置を要望した。知事からは「非常によいアイデアである」との返答だった。

脱炭素の取り組みは

問 「太陽光発電設備と蓄電池の設置」「電気小売契約の切り替え」についてのアンケートを行ったが結果はどうか。

答 683件の回答があった。「設備を設置済み」が25%。「設置を検討している」と「いずれ設置したい」を合わせて76件であった一方「全く設置するつもりがない」が243件。新電力への切り替えでは「電気代が安くなるのであれば考える」がおよそ半数だった。情報提供を希望した195件の人たちの疑問に丁寧に答え、脱炭素化に向けた取り組みを進める。



おおつば りょうこ
大坪 涼子
(日本共産党)

こどもの防災教育は

実践的な取り組みを実施



こちらから視聴できます

問 小中学校や保育施設での震災伝承と防災教育の取り組みはどうか。

答 通常の避難訓練はじめ、登下校時を想定した訓練、保護者への引き渡しのほか、多角的で実践的な取り組みを実施している。全てのこどもたちが防災への意識と実践的な防災力を身につけることを目指している。



登下校時の訓練に取り組む気仙小学校児童

旧脇ノ沢駅を震災遺構に

問 旧JR脇ノ沢駅跡地を震災遺構として整備しては。

答 震災の伝承のために有効であるが、行政が主体となつての整備は計画していない。

県記念事業に協力は

問 県政150周年記念事業パレードが市内で開催される。県への協力はどうか。

答 県主催の事業ではあるが、できることは協力する。

市道管理業務は

問 道路包括管理業務の基本的考えは。

答 市と民間事業者が連携し、インフラ施設の効率的・効果的な維持管理を図る。



いとう あきひこ
伊藤 明彦

公共施設整備の遅れは

要因は交付金の不採択



こちらから視聴できます

問 本年度中に着工予定の矢作「ミゼンの新築工事が、未だに始まっていない理由は。

答 財源として見込んでいた国への交付金申請が、不採択となつたため。現在、2次募集の申請を行っている。

問 3施設それぞれの完成予定はいつになるのか。

答 矢作「ミゼン」は工期を9カ月程度と見込むことから、工事完了は来年度になる。二又診療所は来年6月を、消防屯所は令和8年度内の工事完了を予定している。



3施設の予定地（矢作町）

学校適正規模化は

問 複式学級の増加と学校の小規模化が進行する現状で、小中学校の再編について、どう考えるのか。

答 こどもの数や学校規模だけで判断できないことも考慮しつつ、学校再編も選択肢の一つとして、こども達にとって望ましい教育環境を第に考え慎重に検討していく。

トンネルの進捗は

問 新笹ノ田トンネルの早期事業化に向けての進捗状況はどうか。

答 岩手県は工事の方法等を固め、国土交通省に対し技術面や予算面での支援を期待しながら、国の直轄権限代行事業による実施も視野に入れた検討を進めているものと思う。



さ さ き りょうま
佐々木良麻
(とうほく未来創生)

犯罪被害者への支援は 条例制定と経済支援検討



こちらから視聴できます

問 犯罪の被害に遭った人に対する支援のため、全国の自治体で条例の制定が進められている。本市でも制定する考えはないか。

答 被害に遭った人に寄り添い、尊厳と権利を守る姿勢を明確に示す必要があると認識しており、「陸前高田市犯罪被害者等支援条例」を策定する方向で作業を進めたいと考えている。

問 被害によつて生じた医療費や休業による収入減等に対する支援のため見舞金を支給する自治体があるが、本市の考えは。

答 本市が犯罪被害者支援のために実施している支援調整会議においても、精神的苦痛等から住む場所を変えたいが、転居費用等が負担になっているなどの具体的な要望があった。条例の中で転居費用の助成を含め、

実効性ある経済的支援を盛り込む方向で検討していく。



犯罪被害者等支援の啓発パネル展

生成AIの活用は

問 本市における生成AIの活用状況はどうか。

答 資料作成や文章の要約等に活用している。一方、行政事務を全て代替できるものではなく、職員の判断を補助する手段として活用することが重要と認識している。



ふじくら たいじ
藤倉 泰治
(日本共産党)

防災大学の誘致は 県と国に働きかける



こちらから視聴できます

問 (仮称)防災大学誘致に向けた対応は。

答 大学や研究機関、民間企業等とも連携し、県と国となつて国に働きかける。

問 この誘致活動は本市の新たな取り組みであるが、市長の「大学誘致」とのかかわりはどうか。

答 選挙時には(仮称)防災大学校について承知していなかった。公約の大学誘致と特にかかわりはない。

熊本地震への支援は

問 熊本地震の被災地への支援をどのように考えているか。

答 いまだ県から応援職員派遣要請はないが、迅速に対応できるよう準備している。

独自の物価対策は

問 国の物価高騰対応重点支援創生臨時交付金は1180万4千円と少額だが活用策は。

答 公共交通事業者と運輸・交通事業者への支援などに予算計上した。今後も国・県の動向を注視し、実効性の高い支援策の具体化に努める。



震災の伝承に取り組む本市



さ さ き かつよし
佐々木 義

三陸道の緊急連絡路開放は 管理者に鍵の借用を要望



こちらから視聴できます

問 今泉地内の三陸沿岸道路に設置されている緊急連絡路の災害時の門扉開放は。

答 市の判断で使用できない状況。今後引き続き、道路管理者に鍵の借用を要望していく。



今泉地区にある緊急連絡路

問 避難所等への冷房機器や備品、装備の見直しは。

答 指定避難所などにスポットクーラー42台を整備する。また、本丸公園へのテント

や投光器などの資器材整備も順次進める。

交流人口について

問 ホテル宿泊者や市民から飲食店が少くないとの声を聞くがどうか。

答 アンケートでニーズを把握し、関係機関と連携を図りながら事業者の参入を後押しする。

問 潮風トレイルのハイカーが利用する道の整備は。

答 ルートを巡回し、安全第一に努める。

市内経済の状況は

問 厳しさが増す市内経済状況の把握はどうか。

答 関係機関との情報共有により、事業者の経営状況を把握している。得た情報をもとに支援制度の検討を行う。

問 本市農業の現状と将来の見通しは。

答 昨年度から「いわて農業生産強化ビジョン」に基づき、県と連携して大規模園芸施設誘致推進コンソーシアムを設立し、農業法人誘致に取り組んでいる。また、農家所得の向上策として、ふるさと納税を活用し、市場価格の影響を受けやすい米や評価が高い米崎りんごを中心に出品拡大を図っている。

問 農業振興策と担い手の確保は。

答 三陸地域で営農を希望する農業法人との調整を進めており、受け入れ体制を整え、法人誘致に努める。また、農業移住者等には農業担い手支援事業を創設し、農業資材等の経費補助をはじめ、就農希望者とのマッチングを図り、後継者確保に努める。

農業の担い手確保は 法人誘致などに努める



こちらから視聴できます

問 陸前高田型農業の具体的なモデルはあるのか。

答 農業経営基盤構想では、水稻に果樹・園芸作物を組み合わせた複合経営のモデルを示しているが、県の方針変更により、基本構想も見直し、実践的で現状に即した「陸前高田型」の新たな営農類型・指標を作成する予定だ。



振興作物ピーマンの収穫作業 (横田町)

災害復旧や自然災害に備える

第3回定例会において、補正予算を可決しました。令和8年度一般会計歳入歳出にそれぞれ21億4716万円を追加し、予算総額を219億9817万円としました。

歳出の主なものは、矢作コミセン新築工事費の増に8503万円、緊急自然災害防止対策事業工事費8000万円、災害復旧に計3900万円、放課後児童クラブの補助金増に2078万円のほか、基金積立金の増(詳細は8ページ)などです。

一般会計の主な補正予算項目

歳出(支出)		(万円未満切り捨て)
項目	補正額	補正の理由
コミュニティ施設整備事業費	8503万円	矢作コミセン新築工事費の増
市道改良舗装事業費	8000万円	緊急自然災害防止対策事業工事費
農業用施設単独災害復旧事業費	300万円	令和8年6月21日～22日の大雨災害に係る復旧
公共土木施設単独災害復旧事業費	2500万円	
道路橋梁単独災害復旧事業費	1100万円	
放課後児童健全育成事業費	2078万円	放課後児童クラブの補助金増

請願審査

請願第1号「子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について」は教育民生常任委員会の審査を経て本会議に諮りました(18ページ参照)。採決の結果、全会一致で採択し、国等へ意見書を提出しました。

請願	請願の趣旨	結果
子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について	早急な教職員不足の解消、誰もが働きやすい職場環境への改善、そして教職員が子どもに寄り添う時間を確保するために、2027年度政府予算編成において下記事項が実現されるよう、国の関係機関への意見書提出を請願いたします。	採 択

意見書で国等に求めたこと

- ① 小・中学校の学級編成標準を30人にすること。複式学級の解消や基準の引き下げ等の検討。
- ② 自治体が独自で配置できる加配教職員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。
- ③ 国の標準を下回ることもの数であっても加配定数の削減は行わないこと。
- ④ 教職員の新規採用を持続的に確保し、専門性を発揮できるような必要な財政措置を講じること。
- ⑤ 自治体の働き方改革実行に必要な予算措置を講じること。

意見書全文は
こちら



帰省した学生が地域で働く際の支援を

問 市外へ進学した若者は将来の地域を支える存在。つながりを確保し在学中から継続して情報発信すべきでは。

答 高校卒業時に「ふるさと住民登録制度」の専用アプリへ登録を促し、地元の担い手募集の情報発信するなど、関係性を築けるよう取り組みたい。進学した学生が帰省し、観光や農漁業で働く際、時給



きむら あきら
木村 聡
(とうほく未来創生)

市外進学者との接点は
専用アプリで情報発信



こちらから視聴できます

問 部活動指導の体制は産業振興や福祉等の観点からも参考となる意見だが、現時点で直接的な金銭補助は考えていない。

答 を上乗せする等の支援策は。

問 部活動の専門指導者不足に地域おこし協力隊の活用はどうか。

答 安全で安定的な運営に指導者確保は重要。専任の採用は困難だが、他事業の隊員が経験や専門性を生かすなど、指導参加の可能性を今後検討する。

問 介護現場の課題は

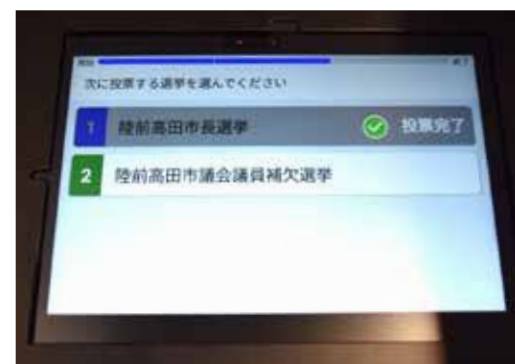
答 デイサービス施設閉鎖や休止など、現状の認識は。事業所の休止や受け入れ制限があり、サービス維持に強い危機感を持っている。

来年の市長選・市議補選から電子投票が始まります

陸前高田市は来年1月31日告示、2月7日投開票の市長選・市議補選からタブレット端末を活用した電子投票を始めます。今期定例会で電子投票に係る条例案と補正予算案を可決しました。東北の自治体では初めての取り組みです。これにより、これまで数時間かかっていた開票・集計作業の時間の大幅な短縮と作業に従事する職員の負担軽減が期待されます。

電子投票はタブレット端末の画面に表示された候補者名などをタッチペンで選択して投票する方式で、文字を書くことが難しい人でも簡単に投票を行うことができます。選択肢の中から選ぶため、書き間違いなどによる疑問票や案分票が出ません。もちろん、投票の際に白票を選ぶこともできます。

また、市長選と市議補選のように複数の選挙の投票も一



タブレット端末で簡単に投票

つの端末で完結し、投票箱への移動もありません。なお、県では電子投票を導入していないので、来年秋に予定されている市議選と県知事、県議の同日選挙は市議選が電子投票、県知事、県議選が手書き投票になる見込みです。

市選管では今後市内各地区での説明会や体験会の開催などを行い、投票の仕方などの周知を図ることにしています。

総務常任委員会は9月25日、市役所で「市消防本部と市消防団との連携」及び「避難所運営時における課題」について所管事務調査を行いました。

及川貴美人消防長は、本市の消防団員数が昭和60年の843人から令和8年には473人に減少し、団員の高齢化や若年層の入団不足が課題であることを指摘。県の意識調査では8割が消防団活動を「地域に貢献している」と評価する一方、仕事や家庭との両立、訓練・行事などの負担から8割以上が団員になりにくいとする現状があることを説明しました。

これらのことから、市消防本部は消防団の報酬の引き上げや運転免許取得費の補助、安全装備の充実、行事の見直しなどに取り組んでおり、平常時から消防本部と消防団幹部が情報を共有し、林野火災や複合災害を想定し

た訓練も進めていることを話しました。

また、災害が多様化・激甚化する中、消防団は、想定外の災害にも臨機に対応できる組織であり、団員自らが企画・立案し、活動の魅力や防災情報の発信源になることを期待するとともに、「消防本部としても全面的にバックアップする」と強調しました。

中村吉雄防災局長は今後の避難所運営について、災害規模や開設期間に応じた複数のケースを想定し、避難所の開設数、市職員配置、住民参加の範囲などを段階別に整理することの重要性を指摘したほか、平時から市関係部局や地域住民、民間団体などが連携し、避難所の開設から生活再建への移行までを体系的に捉えた体制整備を進める必要性について話しました。

本委員会としても、引き続き、防災について調査していくことを確認しました。



消防団と避難所運営について現状を聴取

総務

所管事務調査

9/3

- ・会期中の所管事務調査について
- ・管外行政視察について

9/25

- ・市消防本部と市消防団との連携について
- ・避難所運営時における課題について

委員長 藤倉泰治
副委員長 佐々木 一 義
菅野 弘 紀
伊藤 明 彦
鵜 浦 昌 也

令和8年第3回定例会提出議案

(報告3件、人事案6件、執行前提案3件、条例6件、補正予算2件、決算6件、請願1件、議員発議1件)

- 報告1 小学校特別教室エアコン設置工事の変更請負契約に関する専決処分の報告について
- 報告2 令和7年度陸前高田市健全化判断比率の報告について
- 報告3 令和7年度陸前高田市資金不足比率の報告について
- 議案1 教育委員会の委員の任命について
- 議案2 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 議案3 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 議案4 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 議案5 人権擁護委員の候補者の推薦について
- 議案6 公有水面の埋立てに関する意見について
- 議案7 陸前高田市国民健康保険二又診療所新築工事の請負契約締結について
- 議案8 陸前高田市特定復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例
- 議案9 陸前高田市営農拠点施設条例の一部を改正する条例
- 議案10 陸前高田市企業立地奨励条例の一部を改正する条例
- 議案11 陸前高田市市営住宅条例の一部を改正する条例
- 議案12 陸前高田市下水道条例の一部を改正する条例
- 議案13 陸前高田市議会議員及び陸前高田市長の選挙における電磁的記録式投票機を用いて行う投票に関する条例
- 議案14 令和8年度陸前高田市一般会計補正予算(第3号)

- 議案15 令和8年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算(第2号)
- 議案16 令和7年度陸前高田市一般会計歳入歳出決算
- 議案17 令和7年度陸前高田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- 議案18 令和7年度陸前高田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- 議案19 令和7年度陸前高田市介護保険特別会計歳入歳出決算
- 議案20 令和7年度陸前高田市水道事業会計決算
- 議案21 令和7年度陸前高田市下水道事業会計決算
- 議案22 教育長の任命について
- 議案23 金成水源地浄水施設(機械・電気計装設備)整備工事の請負契約締結について
- 請願1 子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について
- 発議3 こどもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書の提出について

教育長人事 に不同意

教育長の辞任に伴い最終日に追加提案された、議案第22号「教育長の任命について」は、本会議での質疑終了後、3人による反対討論を経て、採決の結果、賛成少数で不同意としました。

【採決状況表(賛否が分かれた議案のみ)】

※「○」は賛成、「×」は反対、「議」は議長のため採否に参加せず。

	佐々木良麻	菅野秀一郎	小林卓	木村聡	大和田加代子	伊勢純	佐々木一義	大坂俊	菅野広紀	大坪涼子	福田利喜	藤倉泰治	伊藤明彦	鵜浦昌也	及川修一
議案第12号	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	議
議案第22号	×	×	○	×	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	議

その他の議案は全会一致で可決

産業建設

所管事務調査

産業建設常任委員会は9月25日、市役所で「カキのへい死等の状況について」を調査しました。

近年、深刻化している養殖カキのへい死の状況を含め、水産物生産量の推移や水質調査・海水温の比較などについて、本市水産課の青山豊英課長と中川健司係長のほか、参考人の広田湾漁協販売課の伊藤博治課長から概要説明を受け、質疑を行いました。

説明によると、広田湾でのカキの生産量は、令和4年をピークに昨年までは減少傾向にあるが、本年はへい死の状況が少なく、好転しているとのことでした。また、昨年に比べ海水温も低く、出荷が本格化する11月以降も期待できるそうです。

本委員会は、水産業の課題に関し貝毒の問題から、継続的に調査を進めてきました

所管事務調査

9/3

- ・会期中の所管事務調査について

9/25

- ・カキのへい死等の状況について
- ・空き家対策の推進に関する政策提言について
- ・管外行政視察について

現地調査

が、依然として原因究明されていないカキのへい死について、養殖現場においても調査することになりました。

同日、気仙町内でカキ養殖の現状について生産者8人から話を聞きました。

2、3年前からへい死が増え、5割から6割程度の出荷に留まっており、経営は厳しさを増しているとのことでした。へい死の原因は広田湾特有の可能性もあり、国や県レベルでの調査の必要性を感じました。

また、産業に密着した情報が得られ、現地調査の重要性を再認識したほか、カキ殻などの残渣処理など、諸課題の解決に向け、引き続き調査することになりました。



カキ生産者と意見交換（気仙町）

委員長 菅野 秀一郎
副委員長 伊勢 純
木村 聡
大和田 加代子
大坂 俊

教育民生

所管事務調査

教育民生常任委員会は、調査テーマを「こどものウェルビーイングの向上」としています。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態で生活を送ることができることを指します。

このテーマについて知見を深め、他自治体の取り組み等を学ぶため、8月10日に市庁舎で宮城教育大学の本図愛実教授を講師に研修会を開催しました。

研修会には、委員外議員のほか、本市教育委員会からも職員がオブザーバーとして参加しました。（詳細は20ページ）

請願審査

教育民生常任委員会に付託された請願第1号「子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書について」は、9月25日に審査しました。

所管事務調査

7/25

- ・陸前高田市こども基本条例に係るリーフレットについて

8/10

- ・こどものウェルビーイングに根ざした教育施策及びこども支援の在り方について

9/3

- ・会期中の所管事務調査について
- ・管外行政視察について

9/25

- ・請願第1号
子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について
- ・管外行政視察について

請願者からは、こどもを取り巻く課題が深刻化する一方、教員不足などでこども一人ひとりに寄り添う時間が十分に確保できない状況にあり、教職員の増員が必要であることが話されました。また、こどもに寄り添う時間を確保するため、学級編成基準を30人に引き下げることを検討する必要があることや教員の働き方改革を実行するために国の予算措置を求めることなど、請願の趣旨について説明がありました。

審査では、委員から、こどもたちの成長には教員が一人ひとりに寄り添うことが不可欠であり、教職員の増員に取り組むべきとの意見や職場環境の改善を進め、教員のなり手不足解消に取り組む必要があるとの意見がありました。

その結果、出席委員全員一致で「採択すべきもの」と決しました。



請願内容について当局から説明

委員長 佐々木 良 麻
副委員長 大坪 涼 子
小林 卓
福田 利 喜
福川 修 一
及

チャオチャオ陸前高田道中おどり

議会として今年も参加



本市議会は7月18日、昨年に続き今年もチャオチャオ陸前高田道中おどりに参加しました。及川修一議長を先頭に陸前高田市議会の横断幕を掲げ、「チャオチャオ陸前高田」や「高田音頭」などの曲に合わせて踊り歩きました。

この催しは、高田町市街地のほんまる公園通りを会場に行われており、毎年市内の各地区や地元企業など各種団体が参加しています。東日本大震災で中断していましたが、令和6年から再開しました。

今年は国際交流協会を通じた参加者も多く、大いに賑わいました。市内の地域ごとの参加も見られ、チャオチャオの復活が各コミュニティの結束に大切な役割を果たしている様子が伝わりました。

本市議会としても、本来の議員活動のほか、このような催しに積極的に参加し、市民に親しまれる活動を展開していきたいと考えています。また、10月24日と25日に行われる本市産業まつりにも参加予定です。

教育民生常任委員会研修会

こどものウェルビーイング 向上について学ぶ



講師の本図愛実氏

教育民生常任委員会は、令和7年9月から令和9年8月までの今期の調査テーマを「こどものウェルビーイング向上について」と定め、調査・研究を進めています。その一環として8月10日、宮城教育大学の本図愛実教授を講師に招き、研修会を開催しました。

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、充実した生活を送ることができる状態を指す考えです。国のこども大綱でも、すべてのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができ、「こどもまんなか社会」の実現

を目指しています。

研修では、こどものウェルビーイングが必要とされてきた社会的背景やこどもの状態を把握するためのデータの活用、ICTを活用した支援などについて学びました。本図教授は「こどものウェルビーイングの向上には、こどもたちが意見をもち、主体的に学習できる環境の整備が重要」と強調し、全国でこどもの主体性を育む教育の実施事例を紹介しました。

こどもたちのライフスタイルが多様化し、SNSによるトラブルに代表されるような新たな課題をはじめ、複合的なウェルビーイングの阻害要因が生じていることから、教育だけでなく福祉、医療、地域社会など、さまざまな分野が連携してこどもを支えていくことが重要であると改めて認識する研修会となりました。



委員外の議員や市教育委員会職員も参加

教育民生常任委員会では、この研修会で学んだ内容をもとに、こどもが主体的に地域や社会に関わることでできる環境づくりについて、さらなる調査・研究に取り組み、新たな提言につなげていきたいと考えています。

奥州・大船渡・陸前高田市議会議員研修会

3市議会で本市防災学



講演する中村局長

奥州市、大船渡市、本市の三市議会による議員研修会は8月18日、本市コミュニティホールで開催しました。「デジタル技術とAIを活用した新しい災害情報伝達手段の必要性」と題し、本市防災局の中村吉雄局長がシン・オートコールシステムについて講演しました。

シン・オートコールは有事の際、あらかじめ登録した住民に自動で電話を掛け、AIを活用した音声認識により、避難の状況や安否情報等の返答を文字化して集約するシステム。

中村局長は、これまでは災害時に防災行政無線を使って市民に情報を伝えてきたが、放送内容が聞き取れないなどの課題があり、電話による伝達の手法を思いついたことなどの開発経緯を説明。オートコールにより市職員の省力化と導入コストの低廉化を実現したことを強調しました。

その一方で、一般の電話回線を利用するので、発信制限などが生じればシステムが利用できなかったり、1秒間に発信できる回線数が4回線のため、登録者が増えることにより時間差が発生するといった課題があることを指摘しました。

他市議会の議員からは「本市でも導入に向けて検討すべき」といった声があがっていました。

議会と市民の交流コーナー

市議会では、広くご意見をうかがうため、市民のみなさまへクイズを出しています。第137号のクイズの答えとともに寄せられたご意見の一部を紹介します。



暑い中、草刈りしてくれる人に感謝しています。草刈りしている地域とそうでない地域があって疑問を感じます。
(広田町 女性 70代)

市議会だよりには地域に密着した内容や議員の活動が分かりやすく記載してあります。今後も楽しみながら読みたいと思います。
(小友町 女性 70代)



チャオチャオ道中踊りに議員が参加して嬉しいです。率先して地域を盛り上げてほしいです。
(高田町 女性 80代)

今まで使っていたショートステイがなくなり、8月から少し離れた施設に行かねばならず不便です。
(広田町 男性 80代)



自然災害が多く全国のどの市・町も大変です。
(矢作町 女性 70)



議会だよりを議員自ら編集、作成していることをもっと強調して紹介してもいいのでは。
(市外 男性 30代)

学生さんの傍聴体験を増やしてください。
(広田町 女性 40代)



議会だよりクイズ

○の中にはどんな漢字が入るでしょうか？

来年の市長選・市議補選から〇〇投票が始まります。

応募方法 クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、ハガキ、FAX、メールのいずれかで応募してください。また市議会だよりを読んだ感想、市議会への意見・要望などを必ず記入してください。正解者の中から抽選で5人の方に粗品をお送りします。(当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。) ※いただいた意見要望等は次回の市議会だよりに掲載することがあります。

あて先 〒029-2292 陸前高田市高田町字下和野100 陸前高田市議会事務局 宛
FAX 0192-53-1210 MAIL こちらのメール送信フォームをご利用ください。

しめきり 令和8年11月18日(当日消印有効)



議会だより第137号クイズの答え ○の中にはどんな漢字が入るでしょうか？

5月29日に議場を訪れたのは〇〇小学校の児童たちです。 答え 広田



表紙の写真

ロープブリッジの救助を体験！
8月23日に消防・防災フェスタ2026がアバッセたかた周辺で開催されました。救助体験のほか、放水体験をする親子連れも多く見られました。



山林火災への対応について聴講する2市1町の議員

気仙地区議会議員協議会総会

対県要望項目10項目を承認

大船渡市議会、住田町議会、本市議会の議員で構成する気仙地区議会議員協議会の総会は8

月26日、大船渡プラザホテルで行い、対県要望10項目を承認しました。研修会では「山林火災

への対応について」と題する講演が行われました。
対県要望項目は、大船渡市3件、陸前高田市2件、住田町2件、会長提出の3件。具体的には、大規模林野火災に関係した森林再生支援、海洋環境の変動による養殖業支援、鳥獣被害対策、ILCの実現などでした。

続く研修会は、大船渡市総務部危機防災対策課の伊藤晴喜課長が登壇。昨年2月に発生した林野火災の経験を踏まえ、「山林火災は地表が燃えるケースが多いが、樹木も燃える樹冠火に拡大すると被害面積が大きくなる可能性がある」と強調し、強風時には特に注意が必要であることを説明しました。
また、隣近所に声を掛け合うなど、自助と共助による避難行動が有効だったことなどを振り返ったほか、近隣市町への協力に感謝を述べました。
なお、これに先立ち、気仙地区議会リニアコライダー誘致推進議員連盟の総会を行い、今後も国や県に対し誘致実現を求めていくことを確認しました。



全員協議会

令和8年7月以降市当局から提出された案件をお知らせします。

7月16日

◎令和8年度岩手県に対する要望の実施について

8月21日

◎高田第一中学校・高田高校生徒向けバス路線の実証運行について

9月3日

◎東日本大震災15年復興祈念感謝式及び市制施行70周年記念式典について

9月29日

◎岩手県政150周年記念パレードについて

You Tube 配信のお知らせ

議会だよりとともにYouTubeをご覧になりませんか。
一般質問などの見比べも含め、皆さまのご意見をお待ちしております。
※市ホームページ→市議会→音声継ぎ(YouTube陸前高田市議会)をクリックすると陸前高田市議会のチャンネルに移動し視聴したい会議を選んでご覧いただけます。



酔仙酒造株式会社 取締役・杜氏

こんの やすあき

金野 泰明さん



金野泰明さん(小友町・50才)は、酔仙酒造株式会社で造り手の最高位である杜氏として働いています。登記上の本社の所在地は、現在も震災前と同じ陸前高田市。移転先の大船渡工場で働く金野さんは「発酵は理屈として分かっている部分は良いが、分からないこともある」と謙虚に仕事の奥深さを追求しています。仕事や陸前高田市への夢などを伺いました。

「お酒は、ものづくり」と高校時代に思い立った私は、東京農業大学へ進み、醸造を学びました。

その後、関東の酒蔵で8年勤め、平成19年秋から酔仙に入社しました。現在は、醸造計画を立て、いつ、何を、どのようにつくるかを働く人たちに伝えることが私の仕事です。そして、米の出来具合や天候などにより、もろみをコントロールするための指示を出して酒造りをしています。

もろみの中では色々な反応が起きていて、分からないこともあります。でも、現代の学問で発酵の理屈が解明されてくると、先人たちの言葉としっかり噛み合う瞬間があります。また、個人の勘とコツで造るのではなく、現状を正確に判断して進めていくことが現場では重要です。

一番大変だったのは大震災。千厩の蔵をお借りし、社を代表する「雪っこ」にみんなで取り組みました。復興にがんばったすべての人がそうだったと思いますが、当時はあまりにも目まぐるしく、その記憶は断片的です。

一番嬉しいのは、「おいしい」と言葉をもたらした時です。杜氏となってからは気になるもろみの手

入れなどに追われ、高田の飲食店に顔を出せないのが残念です。

教育委員会の出前授業で市内中学校に出かけしています。こどもたちに、お酒にこだわらず発酵のことをもっと伝えていきたいと思っています。

議会へのひとこと

地域の企業は魅力的でなければと思っています。施策はいろいろあると思いますが、企業と一緒に、まちに人が残るようにがんばってほしい。



杜氏として手がけた製品が数々の賞を受賞

議会だより編集小委員会

委員長	福田 利喜
副委員長	大和田 加代子
委員	佐々木 良麻
同	菅野 秀一郎
同	伊勢 純
同	佐々木 一義

「議会だより」皆さん読んでくれていますか? 今年の秋も、10月24と25日の産業まつり、市議会ブースで心よりお待ちしております。私は席を外しているかもしれませんが、あしからず。(秀)

「聴こえてますか?」こりや、ラジオで言うても、聴いてる人しかわからない。聴いてる人は、嬉々として「聴こえてるよ!」と応答してくれる、かもしれない。しかし、これで終わっちゃいけない。聴いてない人にどう声を伝えるか。ココが一番大事だと思って捲し立てていた。

「聴こえてますか?」こりや、ラジオで言うても、聴いてる人しかわからない。聴いてる人は、嬉々として「聴こえてるよ!」と応答してくれる、かもしれない。しかし、これで終わっちゃいけない。聴いてない人にどう声を伝えるか。ココが一番大事だと思って捲し立てていた。

その際、一番不安だったことは「果たして、こんな放送を聴いている人がいるのだろうか」ということ。それゆえハガキ、FAX、メール、生放送と、あらゆる双方向を模索した。

「聴こえてますか?」こりや、ラジオで言うても、聴いてる人しかわからない。聴いてる人は、嬉々として「聴こえてるよ!」と応答してくれる、かもしれない。しかし、これで終わっちゃいけない。聴いてない人にどう声を伝えるか。ココが一番大事だと思って捲し立てていた。

昔日、本市の災害FMでラジオ番組を担当しており、なんの因果か大船渡のFMねまらいんでもマイクを前にしたことがある。都合5年ほどパーソナリティというモノを務めた。

あとがき

